

仙台大学 広報室

Monthly Report

DAN DAN DANCE & SPORTS 11thを開催 — 会場に笑顔が広がる —



仙台大学ブレイキン同好会による楽しいダンスパフォーマンス
＝えぞこホール（宮城県大河原町）

1月24日（土）、えぞこホール（仙南芸術文化ホール）において、今年で11回目を迎えた「DAN DAN DANCE & SPORTS 11 th」（主催：仙台大学・DAN DAN DANCE & SPORTS 実行委員会）が開催され、約350名の方々にご来場頂きました。老若男女・障害の有無を問わないダンサーたち28組の力強く華麗なパフォーマンスが繰り広げられ、会場いっぱいに笑顔が広がりました。

仙台大学からは、男女新体操競技部・体操競技部・ブレイキン同好会・台東大学（台湾）の留学生ほか多数の団体が出演。明成高校・常盤木学園高校・東北生活文化大学高校の各ダンス部による若さ溢れるエネルギーギッシュな演技も披露され、大いに会場を沸かせました。最終演技には、ゲストダンサーとして「チーズマン」が感性豊かで創造性のあるダンスを繰り広げ、会場中の方々の目が釘付けとなりました。

DAN DAN DANCE & SPORTS 11 thを終えた実行委員長の佐藤将道さん（体育学科4年－福島北高校出身）は「会場を後にする方々からは、ありがとう！よかった！楽しかった！と声をかけて頂き、実行委員長冥利に尽きる次第です。人を引っ張る立場になって、苦労した部分もありましたが、周りの協力があって無事に終えることができました」と感謝の言葉を述べました。

< 目 次 >

DAN DAN DANCE & SPORTS 11thを開催—会場に笑顔が広がる	1
プロ野球楽天の新人選手が本学で体力測定に臨む	2
NRサプリメントアドバイザー資格試験に本学から5名が合格	3
第1回 高校生のための仙台大学教師塾	4
仙台大学硬式野球部「全日本大学野球選手権」出場記念誌が完成	7
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email: kouhou@sendai-u.ac.jp



仙台大学わんぱくフット

本学の山梨雅枝講師は「先週ニューヨークで公演したばかりの世界的ダンサーである「チーズマン」さんにゲスト出演して頂き、コンテンポラリーダンスの魅力を発信できたと思います。学生たちには「踊る」・「創る」という力のほかに「観る」という「鑑賞力」を身に付けさせることを目標にしていきたいです」と今後の抱負を話しました。

なお、「DAN DAN DANCE&SPORTS」は毎年1回開催しており、来年度は、2016年1月23日（土）に開催予定です。ダンスに興味関心のある方は、ぜひご来場・ご参加下さい。



仙台大学女子新体操競技部

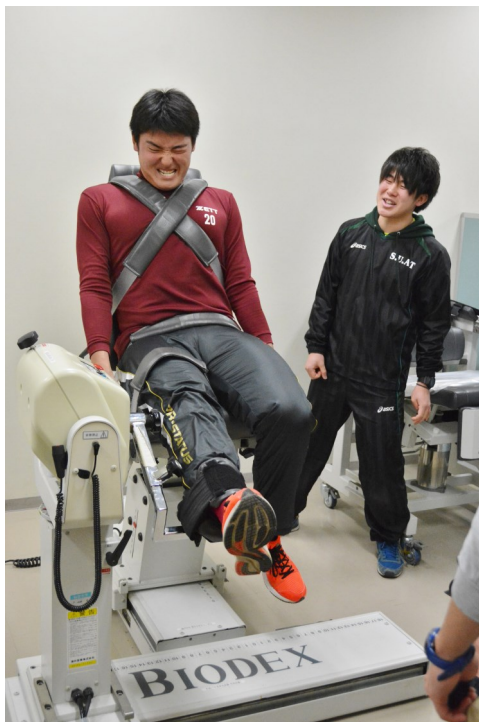


仙台大学男子新体操競技部



台東大学（台湾）からの留学生

プロ野球楽天の新人選手が本学で体力測定に臨む



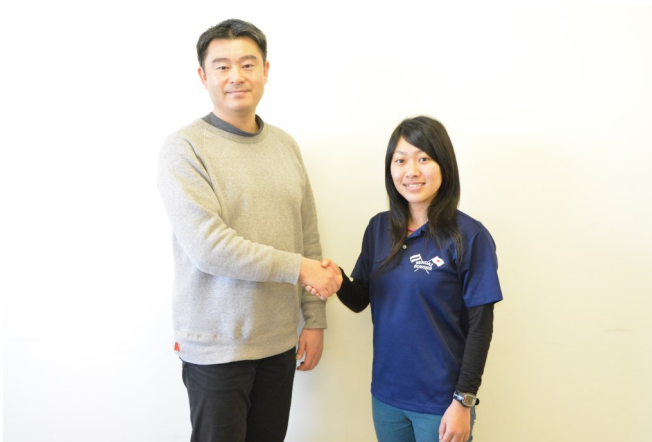
脚筋力を測定する安楽投手
＝仙台大学バイオテックス室

1月24日（土）、本学でプロ野球楽天ゴールデンイーグルスの新人合同自主トレが行なわれ、新人選手9名（安楽智大投手・小野郁投手・福田将儀外野手・ルシアノ フェルナンド外野手・入野貴大投手・加藤正志投手・伊東亮大内野手・八百板卓丸外野手・大坂谷啓生内野手）が体力測定に臨みました。この体力測定は、選手が自分の体力やコンディションを詳しく把握するために、5年前から本学で行なわれています。新人選手たちは、最大酸素摂取量（全身持久力の指標）と脚筋力の測定を行ない、ドラフト1位の安楽投手（＝写真）も苦しい表情を浮かべながら取り組んでいました。

今回の体力測定では、本学の高橋弘彦教授、内丸仁・竹村英和の各准教授、小田桂吾講師が測定指導を行ない、本学アスレティックトレーナー部及び大学院生らが測定補助を行ないました。

脚筋力の測定補助を行なったアスレティックトレーナー部 えんどうこうき の遠藤皓樹さん（体育学科4年一山形・米沢中央高校出身）は、「楽天の体力測定の補助を行なったのは、今回で3年目です。測定は正しく・順序よく・無理をさせず・安全に実施することを心がけました。また、選手たちとのコミュニケーションを通して貴重な経験ができました。今後のトレーナー活動に生かしていきたいです」と意欲的に話しました。

NRサプリメントアドバイザー資格試験に本学から5名が合格



早川准教授と握手を交わす木村さん＝仙台大学

平成26年12月19日（金）、「平成26年度NRサプリメントアドバイザー認定資格」（一般社団法人日本臨床栄養協会の認定資格）の合格者が発表され、本学からは木村汐里さん（運動栄養学科2年一^{きむらしおり}群馬・館林女子高校出身）、菊地遙さん（運動栄養学^{きくちはるか}科3年一宮城・聖和学園高校出身）、菌部一騎さん（運動栄養学科3年一福島・磐城高校出身）、^{ただのみずえ}只野瑞恵さん（運動栄養学科4年一宮城・涌谷高校出身）、佐々木美穂さん（運動栄養学科4年一秋田・大館桂高校出身）の5名（本学からの受験者7名）が合格しました。本学の合格率は71.4%となり、全国の合格率（45.2%）を大幅に上回りました。

NRサプリメントアドバイザーとは、サプリメントやその他の健康食品の摂取方法などを的確にアドバイスできる専門家です。

本学サプリメントアドバイザー資格付与主管の早川公康准教授は「国内外を問わず、スポーツ選手はもちろん一般健常者や高齢者においてもサプリメントを利用するケースが増えています。栄養指導でも通常の食事が重要であるのは当然として、保健機能食品や健康食品等を含むサプリメントに関する多くの知識と深い理解をもった人材へのニーズは高まっており、本資格取得者の今後の活躍が期待されます」と話しました。

今回、本学から最少学年（2年生）で合格した木村さんに、NRサプリメントアドバイザー認定資格試験を受けたきっかけや今後の抱負などを伺いました。



木村汐里さん

Q.NRサプリメントアドバイザー資格試験を受けたきっかけは—

仙台大学運動栄養学科には「スポーツ栄養」に興味があって入学しました。入学直後に見た大学の掲示板に、サプリメントアドバイザーの受験案内のポスターが掲示されていて、そのポスターには「これからの社会は、正しい知識を持ったサプリメントアドバイザーを必要とし、その需要はますます増大していきます」と書かれていたので興味を持ちました。

Q.合格までの道のりは—

1年生の時にも受験しましたが、「不合格」となり、2回目となる今回のチャレンジで合格しました。「今年こそは合格したい」という強い思いで、テキストとネット通信講座の併用で勉強しました。1年生の時は、大学生活に慣れること、勉強と部活の両立でいっぱいでしたが、2年生になり、大学生活にも少し慣れ、授業の空きコマと部活（漕艇部）のオフを利用して勉強しました。くじけそうにもなりましたが、早川先生からの叱咤激励で何とか合格することができ、感謝しています。

Q.今後の抱負は—

まずは、ワンステップを踏み出せたと思います。合格は、部活との両立でかなり大変でしたが、その分得られた達成感は大きく、自信になりました。将来は、管理栄養士になることが目標です。今は勉強が楽しくなり、もっと「栄養」や「サプリメント」について知りたいと思うようになりました。少しずつですが、管理栄養士国家試験の勉強をはじめました。部活との両立をして、スポーツ栄養の現場に携われる仕事に就けるよう頑張っていきたいと思っています。

第1回 高校生のための仙台大学教師塾



12月26日(金)、27日(土)の2日間にわたり、『高校生のための教師塾』が本学B棟2階の教室を会場にして行われました。宮城県柴田高校、宮城県利府高校、明成高校から3年生を中心に1・2年生も加わり、2日間合わせてのべ32名の高校生が参加しました。

『高校生のための教師塾』は、「教師になろう」とする志をもつ高校生に対し、その思いの実現に向けた教育活動支援を行う。さらには、高大連携並びに本学と宮城県教育委員会・仙台市教育委員会との連携を通して教員の資質向上、「よい先生づくり」のための具現化を図ることを目的として初めて開催されました。

初日は、開塾式の後、阿部学長による「教師の魅力とは何か」の講話に始まり、本学で資格取得できる教員免許の内容及び取得の仕方などについて、教職科目を担当している鈴木清和、大内悦夫、渡邊康男、高橋まゆみ、久能和夫各教授、入澤裕樹助教による教職講座が開かれました。

2日目には、「教えるとは」「クラスをつくるとは」「教師に求められる力とは」などの講座を山谷幸司、荒井龍弥、青沼一民各教授が担当しました。さらに本学で教員を目指し「自主ゼミ(教採塾)」で学んでいる3・4年生と一緒に「志の実現のために求められること」について熱のこもったグループ討議・発表を行いました。閉塾式では、宮城県教育委員会教育長高橋仁並びに仙台市教育センター主幹坂本憲昭両氏から自らの体験を振り返りながら「教職を志す者への期待」について力強い励まし言葉を頂きました。

参加した高校生からは、「今回、改めて勉強が大切なことが分かった。さらに具体的な勉強の内容等についても教えて欲しい」「実技種目の専門的な内容にも触れて欲しい」「通信教育の小学校2種のことについて、もっと詳しく知りたい」など、『高校生のための教師塾』の今後に寄せる期待の声が多く届けられました。

初めての開催と言うことで生徒を派遣してくれた各高校の校長先生をはじめとした教職員の皆様、本学教職支援課の職員の皆様など運営面で多くの支援を頂きました。その支援のお陰で充実した2日間になりました。心より御礼を申し上げます。

<報告：教職支援センター 教授 久能和夫>



グループ討議の様子 教職志望の大学生とともに

みやぎ消防出前講座in仙台大学を開催



心臓マッサージと人工呼吸の練習をする学生＝仙台大学第四体育館

1月14日（水）、本学第四体育館で「みやぎ消防出前講座」（主催：宮城県消防課消防班）が開催され、本学現代武道学科の学生が参加しました。同講座は、地域の安全・安心を確保する上で、消防団が抱える課題について理解を深め、大学生の消防団への入団機運の醸成を目指すことを目的として開催されました。

消防団員として長年活動されている柴田町消防団の佐藤賢一団長は、「消防団は、地域密着性、要員動員力、即時対応力という特徴を活かし、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割を担います。地域のために、一緒に活動しましょう」と訴えました。

仙南地域広域行政事務組合消防本部の大宮裕治氏と上遠野裕深氏の救急救命士からは、救命処置、心肺蘇生、AEDの使用、止血法、その他の応急手当について学びました。学生たちは、心臓マッサージや実際にAEDも使い、緊急時の一連の対応を練習しました。

おおくぼなるみ

大久保成実さん（現代武道学科2年一仙台三桜高校出身）は、「消防団の方のお話では、地域の人と人とのつながりの大事さを知りました。AEDは初めて使いました。心臓マッサージやAEDを使用し、正しい処置の仕方が学べて良かったです」と話しました。

本学の学生と教員が合同でFD研修会を開催



学生と教員と一緒に授業の現状や課題について模造紙にまとめる様子＝仙台大学

1月20日（火）、本学A棟2階大会議室で「学生・教員合同FD研修会」が開催され、本学の1年生～3年生までの学生15名と教員10名が、「有意義な90分の授業に向けて」というテーマで、授業（講義・実技・演習）について話し合いました。

最初に、本学教育改善企画委員の笠原岳人准教授からテーマと趣旨が説明され、学生と教員が混合の5グループを編成。授業の現状や課題について、グループごとにディスカッションを行いました。その後、各グループで意見を集約し、「共有」に向けてのまとめの作業が行なわれ、最後にグループごとに発表が行なわれました。

各グループからの発表終了後、本学教育改善企画委員長の栗木一博教授は「教育のマネジメントに関する内容の意見が多かった。授業の進め方を振り返ることができた。学生の理解を促進するための工夫をしていきたい」「カリキュラムのあり方や授業の組み立て方を検討し、学習内容の順次性と科目間の関連性を示していくことが必要であると強く感じた」と講評を述べました。

ししどかなこ

宍戸香菜子さん（健康福祉学科2年一仙台東高校出身）は「日頃思っていたことを話すことができ良かったです。授業の改善に少しでも貢献できたら嬉しいです。このような機会の提供は、学生の意欲も湧くので、ぜひ続けてほしいです」と話しました。

避難訓練を実施しました



消火班による放水体験の様子

仕事納めである12月25日（木）柴田町消防署の協力の下、避難訓練を実施しました。今回は学生食堂から出火したという想定で、約60人の教職員が参加し真剣に取り組みました。

119番への通報後、本番さながらに火災消火班や避難誘導班、情報連絡班がそれぞれの持ち場である火元や守衛室に駆けつけ、その他の教職員は速やかに噴水前に避難、実際に火災消火班数名が放水を体験しました。

火事が起きた際、1番大事なポイントは自分の逃げ道を確認しつつ、逃げ遅れた人がいないかどうかの確認だそうです。トイレや倉庫・会議室など施設全てを迅速かつ確実にチェックすれば、犠牲者ゼロを達成できるとのことでした。

最後に消防署の方から「通報する際にパニックとなり、自分の住まいさえ言えない場合があるので、日頃から電話の近くに自宅の住所や電話番号を大きく掲示しておけばいざという時にとっても役立つ」という具体的なアドバイスをお聞きし、終了となりました。

「火災を起こさないことが最大の人命救助」今一度この言葉を噛みしめ、大学全体でさらなる火災予防に努めて参りましょう。

平成27年度大学入試センター試験無事終了



1月17日（土）～18日（日）と実施された大学入試センター試験が無事終了しました。宮城県内の12大学を会場とした今年の県内の志願者数は、去年より318人少ない9,898人で、そのうち仙台大学では750人が受験しました。

17日には地理歴史・公民・国語・外国語、18日には理科と数学それぞれの試験が行われましたが、心配されたリスニングの再試験はゼロで、18日の午後～夜にかけて強風のため東北本線のダイヤが乱れたものの、受験生に対する特段の影響もありませんでした。

2月6日（金）～7日（土）には本学の一般入試試験も予定されており、受験生にとって希望の春は間もなくです。

日本芝草学会から寄付を頂きました



1月13日（月）付で、2014日本芝草学会秋季大会運営委員会様より、本学に対し、寄付金を頂戴致しました。

この寄付金は、平成26年10月3日～5日に本学を会場として、「2014日本芝草学会秋季大会（仙台大学）」が開催され、運営面での協力に対するものです。

誠にありがとうございました。

仙台大学硬式野球部「全日本大学野球選手権」出場記念誌が完成



平成27年1月15日（木）、本学硬式野球部が平成26年度春季リーグ戦を制し「全日本大学野球選手権」に初出場した足跡を振り返る「仙台大学の“神宮ロード”」が完成しました。

「仙台大学の“神宮ロード”」は、記念すべき神宮初出場を硬式野球部に関わった皆様と共に振り返る一資料になるよう硬式野球部OB会が企画しました。

1月31日（土）に、仙台国際ホテル（仙台市青葉区）で「仙台大学の“神宮ロード”」発行記念パーティーが開催され、遠方から多くのOBや大学関係者、地元・柴田町からは硬式野球部を支援する有志の会「川交会」せんこうかいの皆様がご参加下さり、喜びを分かち合いながら、盛会裏に終了しました。

BLS部、宮嶋克幸選手(体育学科1年)が大健闘の3位— 2014/2015全日本スケルトン選手権



写真提供：OB高橋宏臣さん

ソリに乗り込む宮嶋選手＝長野スパイラル

12月28日(日)、長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラス)で行なわれた「2014/2015全日本スケルトン選手権」において、本学BLS部(ボブスレー・リュージュ・スケルトン部)の宮嶋克幸選手(体育学科1年—北海道・札幌丘珠高校出身)が2回の合計タイム1分48秒35で見事3位入賞の大健闘を見せました。全日本での上位入賞の結果、宮嶋選手は、男子ジュニアナショナルチームの選抜メンバーに選ばれました。

未来のスケルトン界を担うであろう宮嶋選手に課題や今後の抱負などについて話を聞きました。



宮嶋克幸選手

Q.仙台大学に入学した理由は—

オリンピックに憧れ、中学3年からスケルトンを始めました。高校2年時の全日本で9位に入り、鈴木省三先生(仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督)から「仙台大学でスケルトンをやらないか」と声を掛けて頂きました。仙台大学出身で、高校の恩師である西方英幸先生(平成3年体育学科卒)からも入学を後押しされました。本気でスケルトンをやるなら仙台大学しかないと思い、入学を決意しました。また、将来は体育の先生になりたいという目標があります。

Q.今の課題は—

トップ選手は、「滑走技術」や「プッシュタイム」など誰にも負けないものを持っています。それに比べて自分は、中途半端でこれといった強みがありません。全日本では「強み」を明確にしていかなければ勝てないことを痛感しました。2月1日～カナダ・カルガリーで男子ジュニアナショナルチームの合宿が行なわれます。そこで経験を積み、技術を身に付け、自分の強みを見つけてきたいと思います。

Q.今後の抱負は—

全日本で3位に入りましたが、この結果に満足することなく、さらに上を目指して頑張りたいです。来シーズンに開催される「スケルトン世界ジュニア選手権」を見据えて精進していきたいと思います。

世界へ羽ばたく—BLS部、黒岩俊喜主将(運動栄養学科3年)が男子ボブスレー2人乗りでナショナルチーム入り



更なる飛躍を誓う黒岩主将
=仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン人工練習場

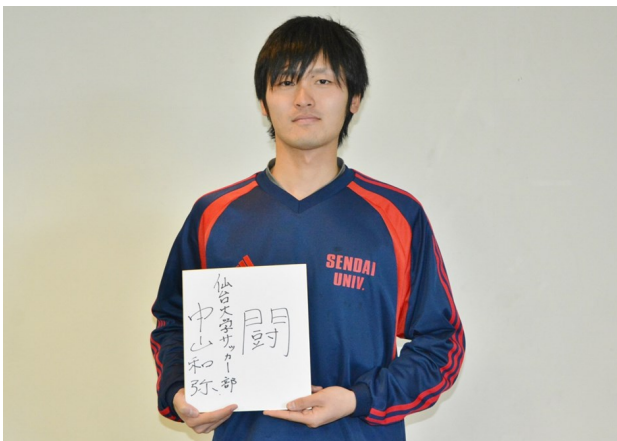
ソチ五輪ボブスレー日本代表で、本学BLS(ボブスレー・リュージュ・スケルトン)部の黒岩俊喜主将(運動栄養学科3年—神奈川・橘高校出身)が男子ボブスレー2人乗りでナショナルチームに選ばれました。2月7日(土)～18日(水)までスイスとオーストリアに遠征し、国際大会に臨みます。

黒岩主将は、昨年9月に長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)で開催された「全日本プッシュ選手権」で1位。コンバインテスト(15m・30m・45m加速走、砲丸フロント投げ、立ち幅跳び、スクワットetc)でも評価の基準を大きく上回り、バランスのとれた高い身体能力が評価されました。また、ボブスレーのパイロットの操縦技術も高い評価を受け、男子ボブスレー2人乗りでナショナルチーム入りを勝ち取りました。

黒岩主将は「ソチではボブスレーのブレイカー(ソリを押し役)として出場しましたが、今度はパイロット(ソリを操作する役)に挑戦することになりました。ボブスレーではパイロットが花形。自分が先頭に立って、日本のボブスレー界を牽引していきたいです。海外のコースを多く滑り、国際大会の経験を積み、パイロット技術と対応力を身に付けたいです」と力強く抱負を話しました。

引き続き、黒岩主将への熱い応援をよろしくお願ひ致します。

男子サッカー部、DF中山和弥選手(体育学科4年)がY.S.C.C.横浜に入団内定



色紙に意気込みを書いた中山選手

本学男子サッカー部DF中山和弥選手(体育学科4年—コンサドーレ札幌ユース出身)の2016シーズンからのY.S.C.C.横浜への入団が、正式に内定しました。これで本学男子サッカー部から今年度は、

FW齋藤恵太選手(福島ユナイテッドFC内定/体育学科4年—宮城・聖和学園高校出身)、MF熊谷達也主将(ブラウブリッツ秋田/体育学科4年—柏レイソルユース出身)に続き、3人目のJリーガーが誕生することになりました。

中山選手は左利きで、190センチの長身を生かしたヘディングと1対1の強さが持ち味の大型センターバックです。中山選手に大学4年間を振り返ってもらおうと共に、今後の抱負などについてお話を聞きました。

この4年間を振り返って—

同じポジションに良い選手がたくさんいました。競争が激しく、厳しい環境の中、努力する大切さを学びました。自分はDチームから這い上がり、成長できた4年間でした。また、頻繁にベガルタ仙台と練習試合できたことは、大変貴重な経験でした。

大学サッカーで学んだことは—

仙台大学男子サッカー部の吉井監督・瀬川コーチ・白幡トレーナーをはじめ、温かいスタッフに恵まれ、非常に有難い環境でサッカーをやらせて頂き、感謝する気持ちの大切さを学びました。これからも感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張っていきたいと思ひます。

どんな選手を目指しますか—

しっかりと感謝の気持ちを持てる、浦和レッズの關莉王選手のように熱い気迫を見せることのできる選手になりたいです。1年目からレギュラーを獲れるように頑張りたいです。今から(齋藤)恵太と(熊谷)達也との対戦を楽しみにしています。